

ふるさと池内探検隊ニュース

平成 27 年 9 月 18 日

第 3 号

舞鶴市城南会館

☎(0773)78-1800

地域の皆さんの力に支えられながら

2回目の探検活動で さまざまな発見！

岸谷から白滝、別所へ 歴史と生活を探る

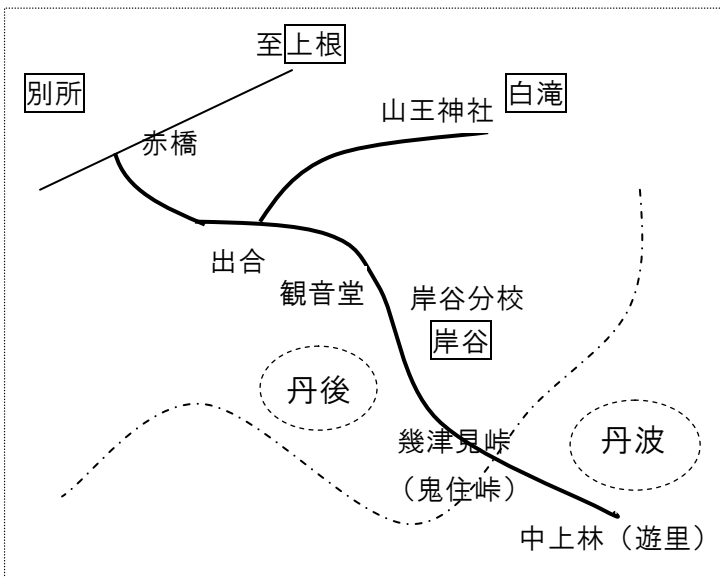
9月12日（土）に行われた「ふるさと池内探検隊」第2回目の探検活動は、岸谷公民館（長泉寺）から始まりました。この日のために、区長の岸本良信さんが、長泉寺を開けておいてくださいました。また、ともに岸谷地区のお話もしてくださいました。

源平の合戦の後、東の方から追ってきた源氏の兵から身を隠すため、岸谷と白滝の分かれ道にある「出合」に平家の人たちが集まって暮らし始めたといわれます。そののち、人々は「岸谷」と「白滝」に分かれて住むようになります。そのとき、平家の守り神として大切にしてきた二体の像を分け合いました。岸谷は「聖観音」をとり「観音堂」に祀りました。白滝はもう一方の守り神を「山王神社」に祀ったのだそうです。



長泉寺（岸谷公民館）
久手先生を囲んで

京街道沿いの村として栄えた「岸谷」



岸谷は、京街道沿いの村として栄えました。細川幽斎が田辺（舞鶴）に来るまでは、丹後と丹波の境にある岸谷を旅人が行きかいました。

岸谷には旅人が利用する旅館や茶屋が3軒あったそうです。岸谷の方は、確かに造りの大きい家があったといっておられました。

細川幽斎は、より通りやすい道をと街道の道筋を変えてしまいました。

「天明のききん」と長泉寺

長泉寺の創建は1636年（寛永13年）です。江戸時代に、天明の大ききんが起きました。作物がとれず、年貢に困ったり食べ物を探したりしていた人たちは、岸谷の峠を越えて上林に行こうとしましたが、峠を越えるまでに多くの人たちが亡くなりました。

気の毒に思った岸谷の人たちは、石地藏（万霊塔）を建てて亡くなった霊を慰めます。これが、長泉寺のそもそもの起こりだといわれています。

寺の前に泉があったことが、「長泉寺」という名のついた理由だともいわれています。



長泉寺の石地藏

今も健在 岸谷分校校舎



昭和25年建築の校舎

明治13年（1880年）4月に岸谷分教場ができました。明治41年に義務教育が6年になると、岸谷分校で1年生から3年生まで学び、4年生以上は6キロ以上もある池内校まで歩いて通いました。雨の日は、はいている草鞋（わらじ）のはねがあがるので、はだしで帰ったこともあるということでした。

今の校舎は、昭和25年に建設されたものです。よい木材が使われているからか、しっかりとして

います。昭和35年11月からバス通学となり、学校としては使われなくなりました。

今、岸谷分校校舎は、地域のために使われています。校舎の中には、岸谷婦人会が作られたちぎり絵の地図も掲示されています。この地図には、各家の屋号も記されていました。



屋号もものっている岸谷の地図

いろいろ 観音堂の囲炉裏



観音さんを祀っている「観音堂」は、地域の文化施設の役割ももっていました。この舞台上で浄瑠璃を演じたりご詠歌をしたりしました。岸谷の人たちの集会所としても使われました。寒い日でも寄り合いなどができるよう、中央には囲炉裏が設けられていました。「知らなかったなあ」という岸谷の方の声も聞かれました。

岸谷の観音堂

山王神社の神様にしぼられた 雷様



山王神社

山王神社は、もともとは天台宗のお寺だったのだそうです。江戸時代までは、お寺と神社は同格だったのですが、明治になって神社の方が格上となり、山王神社として今になっていると聞きました。

ところで、白滝には雷が落ちないという話があるそうです。昔、山王神社に雷が落ちました。その時、金の下駄と鎖（くさり）を持った山王神社の神様が出てきました。そして、金の鎖で雷様をしぼり「白滝に二度と落ちてはならぬ」と怒ったそうです。それからは、白滝に雷が落ちることがなくなったということです。

「白滝」という地名がつけられたわけ

白滝川には、滝がいくつもあるのだそうです。その滝に水が落ちる時、白く見えるので、ここを「白滝」と呼ぶようになったと聞きました。

探検隊でも、きれいな水が流れている川を見て、気持ちが晴れ晴れしました。

分かれ道に立つ 追分地蔵



分かれ道には追分地蔵さんが立っていて、道行く人の安全を見守っているといえます。

この探検でも、岸谷と白滝の分かれ道にある追分地蔵さん、別所鉦山と出合への分かれ道にある追分地蔵さんを見てきました。

右の方の山際にお地蔵さんが立つ

「出合」は岸谷と白滝の人たちの先祖が住んでいたところです。しばらくはここで暮らしていたのですが、生活も落ち着いてくると人口も増えたのかもしれませんが。岸谷と白滝に移り、それぞれに集落を発展させてきました。

昔の人たちは、ここで働く人たちや道行く人たちの幸せを願ってお地蔵さんを立てたのでしょう。



別所鉦山への道の前の地蔵追分



鉱山とクルミの木

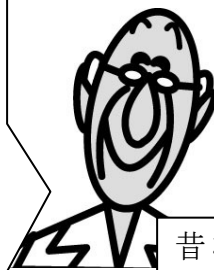
池内川を下ってくる時に、川岸にたくさんのクルミの木を見つけました。クルミは燃やすと高い熱を出すので、鉱石を溶かすのにも使ったのだそうです。クルミの実もありました。みんなでクルミを採りました。

参加した皆さんの感想から

岸谷から上林に至る街道があったことは知りませんでした。今では道も使われず、それに伴い、岸谷も過疎化し高齢化が進んでしまいましたが、その街道が仮に道路整備されていれば、岸谷も現在どうなっていたのか。今とは違う岸谷があったかもしれないと、ふと思いました。

岸谷に旅館、用水路があったとは…。地元の歴史をもっと知りたいと思います。ありがとうございました。

あまりいろいろな場所に行く時間はなかったけど、久手先生のおもしろい話が聞けてよかったです。次が楽しみです。



昔なつかしい風景を楽しめました。その中に、いろいろなドラマがあったことを思うと感無量です。人間の強さと悲しさを思いました。

私の生まれた所。岸谷分校も、遠足で行きました。先生の説明を聞いていると昔のことが浮かび、たいへんうれしく、よりよい一日でした。

文化財の保存は。たいへん必要だと思った。

追われて生き延び、皆で一丸となって村を興おこし……。たぶん、村人同士の間では争いごともなく、和やかな時間が過ぎていったのでしょうか。先生の熱心な講義を受けていると、そんなふうに想像するのです。(耕地が少なくてビックリ)(クルミの木が道筋に見られたのもビックリ)
講義の後、弥仙山に登れたら行こうとオニギリ持参でしたが、道が分かりにくいということで、残念。断念でした。

ふるさと池内探検隊では、たくさんのお話を、久手先生からも地域の方からも聞かせていただきました。また、探検隊員の交流もありました。このニュースでは、その一部しかお知らせできませんが、ご了承ください。今回の探検隊には、17人の皆さんが集まってくださいました。



「岸谷」という地名がつけられたわけ

岸谷には岩がたくさんありました。それが谷筋に見られます。

そこで、岩石が切り立っている谷間ということで「岸谷」といわれるようになったのだそうです。岸谷を流れる池内川の水も、美しく澄んでいました。

第3回ふるさと池内探検隊 探検コース

長泉寺（岸谷公民館）9：05 → 観音堂10：30
→ 岸谷分校 → 山王神社11：20 → 出合（追分地蔵）
→ 別所鉾山前の道（追分地蔵）

第4回ふるさと池内探検隊

- 1 探検日時 10月17日（土）9:00～11:30
- 2 集合場所 布敷公民館
- 3 見学先 寺子屋・横山校・忠魂碑・五郎の滝・巨石・池姫神社・鵠立校・高福寺・弥勒堂
- 4 持ち物等 動きやすい服そう、筆記具、飲み物、必要なら雨具、（あれば）カメラなど



第4回ふるさと池内探検隊

探検地と主な内容（布敷・別所）

◇ 布敷地区

- 1 池内の成立と地名について
 - 五郎の滝 ○ 巨石
- 2 池姫神社の成因と年中行事（石引き・雨乞い・笹踊り）
- 3 鵠立校（池内小の前身）の跡地 他

◇ 別所地区

- 1 別所は「都」であった（政治・経済・教育・宗教）。
- 2 高福寺の変遷と寺請制度について 広福寺 ～高福寺へ
- 3 安養寺（真言宗）と寺子屋・共同墓地内に真言宗の僧墓 他
教育の発祥地「寺子屋」～「横山行」～「鵠立校」へ
池内駐在所跡地
- 4 大空神社の創立と変遷
- 5 西南の役の忠魂碑
- 6 別所横山鉾山飯場跡地とクルミの木
- 7 山城 他

